



茨城県地域臨床 教育センターだより

2012
Vol.01

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

平成24年2月1日発行(第1号)

茨城県地域臨床教育センター長 挨拶

センター長
教授

島居 徹

専門領域 ■ 泌尿器科腫瘍
■ 泌尿器腹腔鏡手術

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センターは、地域医療再生計画の一環として、茨城県北・県央の地域医療体制の整備を最終目標に茨城県立中央病院内に設置されました。このプロジェクトは、茨城県内の医師不足地域における自立可能な地域医療体制の整備、新たな医師循環システム構築による地域医療確保を目的としており、本センターはそのための診療、研究、教育を行なう拠点として平成22年10月に開設されました。

当初2名の教官でスタートいたしました。段階的に増員し、昨年10月には3名の教官を加え、計9名で本格的な活動を開始致しました。診療面では県立中央病院とのチーム医療、各専門診療科の新設・強化、大学病院の特徴である高度・先進的医療の提供などにより、診療体制、医療レベルの一層の向上に貢献しようとしております。その一方で、高度医療の導入・推進において、大学病院とは異なる軽快なフットワークと各科の垣根のない横断的診療を維持し、より地域に根ざした医療をすすめていきたいと考えています。県立病院と大学病院の長所を融合した迅速かつ高度な医療を提供するものですので、是非、患者さんにおかれましては安心して受診頂ければ幸いです。

例えば私の専門分野の泌尿器科診療につきましては、赴任後より泌尿器腫瘍に対する腹腔鏡下手術を導入し、現在、予定の患者さんも含めほぼ毎週実施しており、術後疼痛の軽減、在院期間・仕事復帰の短縮など低侵襲手術として定着しつつあります。今後、ロボット支援手術なども視野にいれながら、さらに高度医療の導入に努力していきたいと考えています。

当センターの活動が県立中央病院のますますの充実と発展につながり、県央・県北の地域医療、医師の継続的供給と循環の中核施設となるよう努めてまいり所存ですので、今後とも県民の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

地域医療再生における茨城県地域臨床 教育センターの役割について



茨城県立中央病院長

永井 秀雄

茨城県は人口当りの医師数が全国ワースト2位、全国平均の3/4、東京都の1/2という極端な医師不足の県です。人口当りの患者数は全国ほとんど変わりません。単純計算だと、茨城県の医師は1名当り全国平均の3~4割増、東京都の2倍の患者を診ていることになります。

この窮状に嫌気がさして茨城県を去る医師も少なくありません。それが高ずれば医師不足は益々厳しくなるという悪循環が生じます。

医師の頑張りには期待するには限界があります。理想的には国レベルの医師偏在解消策があつてしかるべきです。残念ながらそのような動きは全くありません。必要性を訴えても医師過剰を自認する都道府県、市町村、地域はゼロです。合意は難しいと言わざるを得ません。

そこで茨城県は茨城県なりの智慧を出さねばなりません。対策の1つとして、県立病院である茨城県立中央病院が医師を集め、県内の医療過疎地域に派遣するシステムの構築を挙げることができます。このためには県立中央病院の機能を高め、質の高い安心安全の医療を県民に等しく提供できるようになることです。

国の地域医療再生計画事業の補助を受けて、平成22年10月に「筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター」が茨城県立中央病院に設置されました。医学部を持つ県内唯一の大学である筑波大学との間で協定を結び、茨城県立中央病院の機能強化とともに、県内医療過疎地域への医師派遣の促進を担うことが目的です。

東日本大震災、原発事故を受けて元々の医療過疎が一層悪化した地域が全国に多数あります。茨城県も同様です。益々厳しくなる少子高齢化、経済斜陽化を考えれば、日本全体がいずれ「茨城状態」になります。したがって茨城県地域臨床教育センターの成否は今後の日本の医療の成否にも係ることになります。

県民のみなさまの御理解と御支援をお願いいたします。



茨城県地域臨床教育センター教員紹介



副センター長
教授

沖 明典

専門領域 ■ 婦人科腫瘍疾患

マスコミで報道されているように茨城県における産婦人科医不足は非常に深刻です。ここ数年県北・県央地区の婦人科腫瘍患者さんは、これら地域中核病院の産婦人科の撤退等のために筑波大学附属病院を初めとする県南地区の病院への通院を余儀なくされ、治療にご不自由をおかけしてきました。今回当センター事業により県立中央病院で婦人科診療の規模を拡大するべく2011年3月に赴任いたしました。現在婦人科悪性腫瘍に対する手術を中心とした集学的治療を再開しております。これにより、県北・県央地区の患者さんの利便性が図れるものと考えています。当科は筑波大学産婦人科との連携関係もあり、当科での診療が難しい症例に関しては筑波大学ご紹介させていただいたり、逆に大学で治療している県北・県央地区の患者さんの一時的な外来管理をおこなうなどの連携も始めております。

医学生・研修医の皆様へ

当科は茨城県央・県北地区における婦人科悪性腫瘍の拠点として活動を再開しましたが、今後は臨床研修病院として整備していくことを予定しています。当院は現在産科が休止中ですので、水戸済生会病院産婦人科と有機的に協力体制を確立して産婦人科の臨床研修の場を提供できるように現在調整中です。詳細につきましてはお問い合わせください。

患者さんへ

現在当科では産婦人科のうち、悪性腫瘍を中心とした婦人科診療に特化する形で診療しております。産婦人科診療の全てが機能していない点でご不便をおかけすることとなりますが、他科との連携を図りながら専門的な医療サービスを提供していきたいと思っております。



准教授

武安 法之

専門領域 ■ 循環器内科

■ 虚血性心疾患

■ 心血管カテーテル

■ 治療

茨城県立中央病院は県央地域を支える拠点病院として、茨城県の地域医療を支えてきた中核病院です。昨今の循環器診療の充実には目を見張るものがあり、茨城県行政の深い理解と協力をいただいで、循環器科に関わる施設・機器の整備、医師をはじめとした検査技師・臨床工学技師・放射線技師などスタッフの増員を果たしてきました。さらには2011年1月から循環器外科スタッフが加わり、4月には開心術が可能な手術室、心臓カテーテル室を擁した循環器センターが竣工し、循環器診療のほぼ全域をカバーできる施設へと成長を遂げております。このような時期に、筑波大学と茨城県の連携により、筑波大学茨城県地域臨床教育センターが併設され、さらなる臨床の充実のみならず、県央地域での医療教育、研究機関としても重要な役割を果たすべく変貌しようとしています。実臨床としては、カテーテル治療を中心とした虚血性心疾患治療、アブレーション治療を中心とした不整脈診療、開心術を中心とした心臓血管外科治療を3本の柱として、茨城県下広く地域医療に貢献するとともに、世界標準の医療を提供できる施設としてさらなる飛躍を目指しています。加えて研修医や看護師、コメディカルを含めた医療人教育の一翼を担い、豊富な症例数を背景にした多施設共同の臨床研究を主導していきます。今後も茨城県の医療をさらに改善してゆくべく努力してまいります。



准教授

後藤 大輔

専門領域 ■ 膠原病リウマチ

筑波大学から茨城県立中央病院への膠原病リウマチ科の常勤医師の派遣は、2006年から始まり、私は2010年4月より県立中央病院の膠原病リウマチ科部長として着任いたしました。そして同院に筑波大学附属病院・茨城県地域臨床教育センターが開所された2010年10月から、センター所属の筑波大学の教員(茨城県立中央病院の膠原病リウマチ科部長も兼任)として仕事をさせていただいております。

当科で診療する病気の膠原病とは、本来、外敵から体を

守るための免疫という力が、何らかの原因(膠原病リウマチ疾患の原因は、いまだに不明です)により、自分自身の体を攻撃するようになってしまう病気の総称であります。具体的には、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎等々多くの病気が有ります。現在、膠原病リウマチ領域の診断、治療は格段に進歩しております。

とくに関節リウマチは、分子生物学的研究の成果により登場した生物学的製剤により、以前には考えられなかった「寛解(病気であると感じられない状態)」や「治癒」を目標にするとところまでできています。当院でも現在認可されている6種類生物学的製剤を適切に使用し、治療を行っております。他の膠原病においても、最新の研究結果と科学的根拠に基づいた治療を行っております。

県立中央病院と筑波大学との融合により、県内でも有数の診療体制が整った総合病院となっており、一人でも多くの患者さんのお役に立てればと思っております。



准教授

星 拓男

専門領域 ■ 臨床麻酔
■ 手術医学
■ 集中治療

平成23年1月より赴任致しました。茨城県立中央病院の麻酔科は昭和37年1月に開設されており、本邦において東京大学に麻酔科が誕生したのが昭和27年と新しい診療科であることを考えると、全国的に見ても歴史のある麻酔科であり、その一員として働けることを嬉しく思います。

現在手術麻酔に対しては、5人の常勤医に加え、非常勤の先生の助けを借りて月に250~280件程度の麻酔を担当しています。茨城県は人口あたりの麻酔科医数は非常に少ない県とされています。さらに毎年手術件数が増加しており、2011年は新たに婦人科手術の再開と心臓外科の開設などもあり、2010年に比べ麻酔症例数は250件以上の増加が見込まれていて、我々麻酔科への期待が高まっているのをひしひしと感じております。そのような状況の中、最新の知識・技術の取り入れを積極的に行い、患者さんの安全はもちろんのこととして、手術後の生活の質の改善や予後改善につながる麻酔管理をめざして日々診療を行っています。

集中治療室(ICU)は、平成19年7月に開設されており、平成23年2月より救急センター内に移動し、新しく6床のICUとして活動を開始しました。現在麻酔科は、コンサルテーション、ベッドコントロールなどを行い、患者管理は各主治医が行うオープンICUの形態をとっています。ICUに於いても根拠に基づいた世界標準な治療が行えるように努力しています。



准教授

高橋 昭光

専門領域 ■ 内分泌代謝・糖尿病内科

この度、平成23年10月より筑波大学附属病院・茨城県地域臨床教育センターの一部門として内分泌代謝・糖尿病内科が開設されました。日本語だと長い名称ですが、「内分泌=ホルモン」、「代謝=メタボ・コレステロール」と「糖尿病」を専門とする内科、すなわち成人病とか生活習慣病と呼ばれている自覚症状に乏しいけれども、気がついたときには余病で全身の臓器がむしばまれてしまう恐ろしい病態を未然に防いでいこうという取り組みをしています。以前は茨城県立中央病院でも糖尿病の入院診療が行われていたのですが、昨今の医師不足も手伝い永らく休止状態になっておりました。10月中旬より入院診療を再開しております。糖尿病の患者さんは全国に推計1700万人いる一方、糖尿病の専門医はわずかに4200人。当診療科の常勤医師数は2名と少なく、状態が落ち着いた患者さんもふくめ全員を外来で診ることは到底出来ませんので、お近くの医院・クリニックでの診療継続をお願いすることになります。しかし、地域の先生方にもご安心して糖尿病患者さんの診療をおこなって頂けるよう「もしも」の時の避難場所として、さらに一度しっかり生活習慣病への取り組み方を見直したいとお考えの患者さんをサポートできる場所として、そして後進の若手医師たちがきちんと糖尿病を診られるように教育し県央・茨城県全体へ貢献できればと存じます。どうぞ末永く宜しく願い申し上げます。



准教授

大越 靖

専門領域 ■ 血液内科
■ 造血器腫瘍

私は平成7年に筑波大学を卒業し、血液内科医としてトレーニングを受けて参りました。これまで筑波大学をはじめ県南の病院で働く機会が多かったのですが、郷里が医師不足にあえぐ福島県ということもあり、地域医療が切実な問題となっている県中・県北地域でいつかお役に立ちたいと思っておりました。この度県立中央病院で働ける機会をいただき、大変うれしく思っております。

血液内科は、血液細胞である白血球、赤血球、血小板

と、液体成分の血しょうの異常を相手にする診療科です。これらは全身を循環しながら、病原体から体を守り、酸素を運び、傷口を止血しています。生命維持に必要不可欠な血液ですが、その異常は、白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がん、さまざまな種類の貧血、出血傾向や血栓性疾患を引き起こします。一般に治療が難しいと言われる血液疾患ですが、次々と新薬が開発され、治療法が目まぐるしく進歩しています。一方、血液がんは加齢とともに増える傾向にあり、それぞれの患者さんに合った治療を考えていく必要があります。県立中央病院では血液を専門とする先輩方がすでにしっかりとした診療体制を築かれています。このチームの一員として働けることは何よりの喜びであり、また身の引き締まる思いです。さらなる血液内科診療の充実を目指して参りますので、皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。



講師
鈴木 久史

専門領域 ■ 呼吸器外科

2011年3月1日より、当センター講師として茨城県立中央病院内で呼吸器外科診療に取り組んでおります。呼吸器外科診療の中で、主な対象疾患のひとつは肺癌であります。当センターが設置されている茨城県立中央病院/茨城県地域がんセンターでは、以前から呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科(診断および治療)、および病理科のスタッフによる各科相互の確実な連携により質の高い肺癌治療が行われてきました。そこへ今回、当センターの設置により筑波大学附属病院との連携も加わることとなりました。これにより今後の肺癌診療の幅がさらに広がり、より質の高い医療が迅速に提供できるようになることが期待できます。肺癌だけでなく、気胸、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、胸部外傷などの診療の発展にもつながるものと考えています。今後、茨城県立中央病院との協力によって県央・県北の地域医療の充実を目指して活動していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



講師
徳永 千穂

専門領域 ■ 心臓血管外科

平成9年筑波大学卒業後、筑波大学心臓血管外科に所属し研修。2004年から2006年までカナダ、ブリティッシュコロンビア大学クリティカルケアリサーチラボでリサーチフェローとして働き2007年に帰国。筑波大学心臓血管外科講師を経てこのたび茨城県地域臨床教育センター循環器外科で働く機会をいただきました。

成人後天性心疾患および先天性心疾患ともに興味をもっておりますが、特に虚血性心疾患に対する冠動脈バイパス術を専門としより低侵襲治療であると考えられる心拍動下冠動脈バイパス術を積極的に行っています。

当院の循環器センターは2011年4月に開設となり、周辺地域における循環器系疾患治療の拠点として積極的に患者さんの受け入れを行っています。循環器内科、外科がチームとなり循環器センターでの治療にあたっていますが、循環器外科は主に成人の心臓血管領域の手術治療を行っています。筑波大学を中心に他施設とも密な連携をとりながら、よりクオリティの高い手術治療を提供できるよう日々研鑽を積んでいきたいと考えています。

また、日常の循環器センターにおける外科治療はもちろん、外来業務や研修医・学生の教育・指導に至るまで、院内の充実を図るとともに、周辺医療機関との強い協力体制を作りたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/rinsyokyoiku/index.html>



茨城県